



News Release

2015年2月25日

京都表具協同組合

京表具のいま 和モダンの提案 「もって帰って京都」展 開催

～思い出もお土産も「京都」をもって帰って！～

ベテランから若手まで京表具師84名が所属する京都表具協同組合（所在地：京都市右京区 理事長 田中 善茂）は3月10日（火）～18日（水）京都伝統産業ふれあい館（京都市左京区 京都市勧業館 みやこめっせ地下1階）において「もって帰って京都」展を開催いたします。本展では、和洋室どちらにでも合うことを意識し、身近なインテリアとして使っていただくことを目的に制作した伝統的工芸品「京表具」（掛軸・額・屏風）を展示いたします。また、京表具の伝統的技法を用いた小物（ランチョンマットやコースターなど）の販売もいたします。

京都伝統産業ふれあい館は、平安神宮・南禅寺など東山界隈の観光スポットとも近く、また京都の伝統産業に従事する職人さんの実演が行われており、国内外からの観光客や学校・企業等の社会見学で多くの方が訪れています。そこで「京表具」とりわけ「インテリア」使いを意識して制作した表具をPRし、「思い出」としてもお持ち帰りいただけたらと考え、本展を開催する運びとなりました。

「表具」をもっと知ってもらいたい

和室ばなれに伴う襖・屏風・掛軸等表具の需要の低下ならびに伝統産業業界の後継者不足という問題をかかえ、当組合では「生活に伝統的工芸品を取り入れ、身近に感じてもらう」をテーマに、和洋室どちらにでも合うことを意識した新商品の開発に取り組んでおります。しかしながら「表具」という言葉自体があまり知られていないという現状があります。京都府立京都すばる高校において、生徒と当組合がコラボレーションして新商品を企画するという授業を例年行っており、最初の授業で「表具」という言葉を知っているかと質問をするのですが、毎回ほとんどの生徒から「初めて聞いた」と返ってきます。また、掛軸・屏風などは寺院や美術館で見るとい認識が高いようです。本来、掛軸は書画を長く保存するもの、屏風は風除けや間仕切りから発展したもので、その技術・技法は古人から現代に受け継がれてきた「日常生活の智慧」であることが周知されていないと考えられます。

そこで伝統的技法を用いながらも現代の素材を使用し、馴染みやすさを考えながら制作した表具を提案、掛軸・・・タペストリー、屏風・・・パーティションと、「設え」から「インテリア」として身近に感じていただき「これも『表具』なんだ」と認識いただければうれしく存じます。

「もって帰って京都」展 ～京表具のいま 和モダンの提案～

会 期 平成27年3月10日（火）～3月18日（水）
10：00～16：00（最終日は15：00まで）

会 場 京都伝統産業ふれあい館イベントルーム
（京都市勧業館みやこめっせ地下1階）

入 場 無 料

※本展では京都すばる高校生とコラボした「襖」も展示いたします



本件に関するメディアからのお問い合わせ先
京 都 表 具 協 同 組 合 販路拡大大部長：木南 拓也 広報部長：藤田 幸生
〒615-0042 住所：京都市右京区西院東中水町17 京都府中小企業会館5階
TEL:075(314)5700 FAX:075(313)1120
ホームページ:www.kyo-hyogu.jp/
e-mail: kyoutohyogu2007@yahoo.co.jp